

2013 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	---

重点目標	<p>1、2016 年度の男女共学化に向けての諸準備を実行する。</p> <p>2、2014 年度新校舎使用開始に向けた具体的な諸準備を実行する。</p> <p>3、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</p> <p>4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する</p>
-------------	--

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2014 年 12 月 6 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、中学校1年の「校外授業」、高校1年「新入生合宿」など行事や、中学校 1 年社会科の授業を通じて本校の建学の理念「自由」と「進歩」について学習する。大学史や二中高史の独自プリントを使用して、法政二中高生としての自覚を高めた。今後は大学の「法政学」とどのようにして連携できるかを模索する。				中、高、大連携による10年教育の具体的実践に期待する。
2	組織運営	全教職員が組織的取り組みを通じて、教育方針をたて、実践をし、総括する。そのために年度末に1年間の教育活動を振り返る総括を行い、そこから導き出された教訓を方針化して教育実践をしていかなければならない。13 年度は新校舎第一期工事完成をうけて、学校施設と情報管理に関して、組織の改変を行った。教員会議を通じて方針をたて、中間点検で実践活動の達成状況を確認したが、年度末に新校舎への移転があって、総括が新年度にずれ込むことになった。				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科においては、学力の底上げを図るべく、学習計画・内容の再構築とともに、学力の到達状況に即した特別指導や課題の設定、および学習課題をやりきらせるための細やかな指導の継続に努めた。また、できるだけ多くの生徒を法政大学推薦に値する学力へ到達させることを目指した。全体として、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率も前年度の到達を維持することができた。さらに、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の推進に向け、図書館を活用した教科教育の可能性について公開研究会への参加や学習会を実施するとともに、ICT機器の活用のあり方についても検討を進め、学内での知見を広めた。次年度は引き続き学力の底上げと法政大学推薦率の維持向上を図るとともに、新校舎移行にともなう教科活動上の成果と課題を明らかにしながら、上記学校コンセプトおよび共学化をふまえた教科教育の具体化をさらに推進したい。</p> <p>生活においては、多様化する生徒実態に対し、保健室やカウンセラールームと連携をとる中でキメの細かい指導を展開した。また、暴力絶対反対の観点から、いじめも含めた人間関係の正しい構築についての指導、更には近年広がりつつあるネット(SNS 等)を巡る問題についても HR を通じて入念に実施した。</p> <p>また、生徒の自主性、更には自治意識の基礎と民主的運営能力を向上させるため、クラブ活動においては民主的クラブ運営の観点での指導を重視し、クラスでは各種行事や代議員大会への積極的参画を促す指導を展開した。</p> <p>進路については「自己の生き方」とリンクさせる中で、発達段階に応じると合わせ、進路講演会や作文指導など、段階的に進路観を高める指導を展開した。</p> <p>今後は 6 カ年の生活指導の体系化を更に具体化するのと合わせ、再来年からの共学化に向けた指導内容や環境整備をはじめとした様々な準備を加速化していきたい。</p>				
4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、)	定期健康診断と体力測定(スポーツテスト)の結果やその分析を生徒にフィードバックし、自身の健康状態や体力についての認識を深めさせた。AED は校内の複数の箇所に設置してい				新校舎建設については何よりも生徒の安全

	施設等)	<p>る。生徒がその場所を知っていること、また使うことができるよう、保健学習ではトレーナー機による実習も取り入れている。教職員においても、アレルギーやアナフィラキシー、学校生活において配慮の必要な生徒への理解を深めるための場や、専門家を招き救命救急の講習会などを実施している。また、宿泊を伴う行事やクラブ活動の合宿、長期休暇中の活動に際しては、健康アンケートやコンディショニングチェックを実施し、健康管理や事故防止の注意喚起に努めている。</p> <p>避難訓練は特別防災訓練も合わせ計3回実施し、避難場所と避難経路の確認を行った。特に、新校舎建築工事に伴い、動線の変更もあり、よりよい避難誘導について検討を重ねた。また授業担当者が避難誘導をするというはじめての試みもおこない、より実際に近い訓練をこころがけた。次年度以降も工事が続き、さらに新校舎へ移動するので、より適切な避難経路と避難場所を検討し、生徒の健康・安全を第一としていきたい。担当:野村</p>	確保を最優先に進めてほしい
5	連携 (保護者、卒業生、地域等)	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与するとともに、共学にふさわしい新しい育友会作りの話し合いを開始した。また、毎年夏に開催される「育友会集中ミーティング」における学校と保護者の意見交換に重点を置いた。また、定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生は同窓会を窓口として、ホームカミングデーの開催、監督コーチ懇談会(日常の部活指導におけるOBとの連携)、進路指導の一環としてOB講演会を実施した。今後は、新校舎建築と共学化に向けた募金活動と卒業生名簿の整理を行いたい</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、毎年行われる地域懇談会での率直な意見交換を始め、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応、学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、教員による年5回の登下校路上指導、を行った。また二高祭に於いて、地域の商店街と話し合いを持つことで、期間中3店舗が出店してくれた。年度末には地域のランドマークとして存在した時計塔が新しくなるので、地域の方々をお招きして「歴史をつなぐ時計塔式典」を実施した。</p>	育友会と学校が教科教育やクラブ活動のことなどについて話し合という機会が持てて、大変良かった。
6	大学との連携	<p>大学のすべての学部と3つの付属校とが協同しての取り組みであった「ウエルカム・フェスタ」のトライアル開催を成功裏に終えることができた。「法政大学」の自校教育、大学での「学び」についての概論と学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を通じ、高校での「学び」の位置づけをねらうことができた。また、同時開催した保護者向けプログラムでは、「今どきのシュウカツ」をキーワードにしながら、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係について、法政大学キャリア・センター長の講演があり、好評を博した。</p> <p>高校各学年での大学教員を招いての進路講演会は、それぞれの成長過程に合わせて、成功させてきている。大学各キャンパスでのキャンパス・ゼミ見学会も行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。「3年3学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」と各学部での入学前教育(ガイダンス)などで大学の援助を受けている。</p> <p>毎年度末に開催されている「三付属校教研」への大学教員の参加など、今後、さらに取り組みを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。</p>	「ウエルカムフェスタ」は生徒たちだけでなく保護者にも意義があると感じた。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2016年12月6日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎への移転準備	新校舎建築(第I期工事)が無事終わり、2014年3月に竣工を向かえた。旧校舎からの移転を終え、新しい環境での学校生活への準備を進めることができた。旧校舎と併存する2014年度に向けて、新校舎での各種設備等の利用方法をはじめ、安全・安心な学校環境整備を進めている。2014年度にはII期工事も始まり、なおいっそうの安全対策が求められる。				
2	2016年度新学校構想	新校舎建築(第I期工事)竣工ならびに2016年度共学化に向け、各種の教育研究が執り行われた。教育環境のICT化への研究と準備、新図書館構想に向けた視察と学習会、共学化に向けた調査と学習会、そして国際化に向けた取り組みの討議を行った。段階的導入と発展を視野に2016年度に向けて構想の具体化を加速させていきたい。				
3	新制服の制定	昨年度の業者決定を受けて、今年度の制服検討委員会は、2016年度から使用する男女の新制服を決め、教員会議の確認、理事会決議を経た後、入試広報委員会を通じて、広く社会に公開した。次年度は、夏服と付属物を決定していくことになる。				
4	入試広報	2016年度からの共学化を見越し、入試制度の検討や積極的な広報活動をこころがけた。特に、武蔵小杉の交通網の発達にともない、これまでは通学圏と考えられていなかった地域からも通学が可能となったため、JR総武線やJR東海道線、東京メトロ副都心線の駅に看板を設置したり、横浜市営バスや川崎市営バスに広告を掲載するなど、広報の範囲を広げた。入試制度については、これまでの本校の入試制度の歴史を振り返り、分析と検討を重ねた。また、制服についても委員会を設置し、検討した。次年度はいよいよ共学化へ向けて、ソフト面の検討も必要になってくる。2015年度入試は男子、2016年度入試は男女の募集となるので、より丁寧に活動を展開していきたい。				